

令和7年度栃木県林業センター試験研究課題一覧表

番号	区分	試験研究課題名	予算区分	研究期間	研究の概要	その他
01	林業経営	林業における自動化技術等による労働負担低減に関する研究	県単	R3-7	スマート林業の推進に必要な未来技術の導入による労働生産性向上及び労働者の安全性向上等について検証する。	なし
02	林業経営	効率的な伐採・更新方法に関する研究	県単	R3-7	次世代の伐採及び更新方法の基礎的研究として、択伐及び天然更新等の可能性について検証する。また、獣害軽減効果についても検証する。	なし
03	林業経営	新たな低コスト造林保育に関する研究	県単	R3-7	コンテナ大苗木等を用いた造林・保育によるコスト縮減及び労働負担の軽減等について検証する。	なし
04	森林造成	苗木の生産方法の確立・改善に関する研究	県単	R2-7	造林・保育コストの縮減に資する苗木生産のため、コンテナ育苗用培土の改良等による苗木の生産方法の確立及び改善を目指す。	なし
05	野生生物	循環型林業に対応した獣害防除に関する研究	国庫 県単	H27-R7	今後拡大が予想される再造林地において、的確なシカ被害対策を実施するための手法を開発する。 ①下層植生衰退やシカ密度指標を用いた被害発生リスク評価とシカ管理目標の検討 ②大苗無下刈植栽による食害軽減効果や施業省力効果の検討 ③造林地付近でのシカ捕獲による被害軽減効果の検討	なし
06	野生生物	野生動物の効果的捕獲技術の研究	国庫 県単	H22-R7	捕獲強化が求められているシカについて、生息環境や時期に応じた有効な誘引手法や、捕獲効率の高いわなのかけ方等の技術開発を行う。 ①シカの行動を踏まえた捕獲時期や場所、手法の検討 ②給餌誘引を伴う効果的捕獲手法の開発	なし
07	特用林産	県内産原木の利用再開と原木林の再生	国庫 等	(R2) R3-7	1 立木及び原木の放射性セシウム濃度の評価法の開発 ①移行係数に適合する原木代表値の検討 2 伐採更新施業による原木林再生 ①伐採更新による再生原木林の将来予測手法の確立 3 放射性物質の汚染に強い生産技術の開発 ①原木シイタケにおける栽培環境からほだ木及び子実体への放射性及び安定セシウム移動量調査	なし
08	特用林産	新規栽培きのこ等の特用林産物の生産技術開発	その他	R3-7	1 特長のある食用きのこ等の栽培技術の改良 ①新たな栽培用資材を用いるハタケシメジ生産技術改良と適合系統の選抜 2 未利用の特用林産物資源の活用と栽培技術の開発 ①ニオウシメジ等の特徴ある未利用資源の収集と培養技術の開発 ②タケノコの出荷制限地域での放射性セシウム低減技術の開発 3 気候変動に適応した特用林産物の生産技術の開発	なし
09	木材利用	中大径材から木取りした心去り平角・正角等の強度性能試験	県単	R3-7	今後は中大径材の供給増加が見込まれ、大断面の大径材では心持ちに併せ心去りの木取りも可能となるが、心去り材の品質・強度性能等についての研究事例やデータの蓄積が少ないことから、中大径材から想定される様々な木取り(正角4丁取り・平角2丁取りなど)の心去り材について各種強度試験等を実施し、製品としての生産性・収益性・付加価値などを見据えた実用的な試験データを蓄積する。	なし
10	木材利用	新たな造林樹種の各種強度性能試験	県単	R3-7	戦後植林された人工針葉樹林が成熟期を迎え、皆伐・更新の取組が進められている中、短伐期の収穫が見込める早生樹等も更新の有力な選択肢として考えられることから、本県の気候に適した樹種について今後構造成材等としての活用が期待できる樹種を見出すため、早生樹や広葉樹など従前の造林樹種(スギ・ヒノキ)以外の樹種について各種強度性能試験等により品質・性能を明らかにする。	なし
11	木材利用	中大径材から木取りした心去り平・柱角等の乾燥試験	県単	R3-7	今後は中大径材の供給増加が見込まれ、大断面の大径材では心持ちに併せ心去りの木取りも可能となるが、乾燥スケジュールについては研究事例やデータの蓄積について未整備であるため、大径材心去り材の各種木取りによる乾燥方法(中温・高温等)が形状・含水率等材質や強度性能に及ぼす影響を明らかにし、製品としての生産性・収益性・付加価値などを見据えた実用的な試験データを蓄積する。	なし
12	木材利用	非住宅中大規模建築物に活用できるマツシブホルツ等の性能に関する研究	県単	R3-7	中大規模建築物への木材利用が進む中、品質・強度性能が高い県産無垢材の特徴をいかしたNLT等マツシブホルツ強度データを収集し、県産材の新たな用途への利用拡大に寄与するデータを収集する。	なし
13	木材利用	大径材の特長を活かした新製品の開発	県単	R3-7	今後中大径材の供給増加が見込まれることから大断面・心去り材や側取り材の木取りの活用など生産性・収益性・付加価値などを見据えた様々な新製品を開発する。	なし